

第4章 火災による死傷者の状況

1 火災による死者

○ 火災による死者は、たばこ、暖房器具、厨房機器の順に多く発生しています。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による死者」とは、火災に起因して死亡した者をいい、「自損行為」とは、放火による自損行為のことをいいます。

ア 発生状況

火災による死者の年別発生状況は表 4-1-1 のとおりです。

平成 25 年中の死者発生状況をみると、全火災件数の 1.6%にあたる 80 件の火災で 87 人が死亡していますが、前年と比べて死者の発生した火災件数、死者数ともに減少しています。

表 4-1-1 年別発生状況（最近 10 年間）

年 別	全 火 災 件 数	火 災 の 発 生 し た 件 数	死 者 数 合 計	死 自 損 行 為 以 外 の 数	年 齢 区 分					
					(乳 5 歳 以 下) 児	(6 未 19 歳 年)	(20 成 64 歳 人)	(前 65 期 高 74 齢 者)	(後 75 期 高 齢 者 以 上)	不 明
16	6,746	111	122(28)	94	-(-)	3(-)	62(23)	23(3)	32(1)	2(1)
17	6,373	129	137(27)	110	2(-)	3(2)	62(19)	28(4)	41(1)	1(1)
18	5,912	108	116(30)	86	3(-)	-(-)	53(22)	26(5)	33(2)	1(1)
19	5,796	132	149(35)	114	2(-)	3(-)	75(27)	28(5)	40(2)	1(1)
20	5,762	120	128(27)	101	2(-)	1(-)	54(18)	21(5)	50(4)	-(-)
21	5,598	118	129(31)	98	1(-)	4(-)	65(22)	16(6)	42(2)	1(1)
22	5,086	93	105(16)	89	2(-)	6(-)	39(10)	25(2)	31(2)	2(2)
23	5,340	78	84(14)	70	-(-)	1(-)	37(10)	12(2)	34(2)	-(-)
24	5,088	103	115(21)	94	3(-)	2(1)	44(15)	23(4)	42(1)	1(-)
25	5,190	80	87(10)	77	-(-)	1(-)	30(7)	16(2)	40(1)	-(-)

注 1 火災件数は、治外法権火災及び管外からの延焼火災を除いています。

2 () は「自損行為による死者」数を内数で示したものです。

年齢区分別と火災種別、男女別の死者発生状況は、表 4-1-2 のとおりです。

男女別発生状況をみると、男性が 55 人（63.2%）、女性が 32 人（36.8%）となっており、男性が 6 割以上を占めています。自損行為による死者を除いて年齢区分別にみると、男女ともに 75 歳以上の高齢者（以下「後期高齢者」という。）の比率が高くなっています。

表 4-1-2 年齢区分と火災種別、男女別死者発生状況

死 者 の 年 齢 区 分		火 災 種 別							男 女 別	
		合 計	建 物 火 災					そ の 他	男	女
			小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や			
火 災 件 数		80	74	19	15	29	11	6	性	性
死 者 数	合 計	87	81	25	16	29	11	6	55	32
	自 損 行 為 以 外	77	76	25	16	27	8	1	49	28
	乳 幼 児（5 歳 以 下）	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	未 成 年（6 ～ 19 歳）	1	1	1	-	-	-	-	1	-
	成 人（20 ～ 64 歳）	23	23	10	5	6	2	-	18	5
	前 期 高 齢 者（65 ～ 74 歳）	14	13	3	1	7	2	1	9	5
	後 期 高 齢 者（75 歳 以 上）	39	39	11	10	14	4	-	21	18
	不 明	-	-	-	-	-	-	-	-	-
自 損 行 為 に よ る 死 者		10	5	-	-	2	3	5	6	4

イ 自損行為による死者

「自損行為による死者」10 人の発生状況について男女別をみると、男性が 6 人（60.0%）、女性が 4 人（40.0%）となっており、男性が 6 割を占めています。

年齢別では「成人」が 7 人（70.0%）で最も多く、65～74 歳の高齢者（以下「前期高齢者」という。）が 2 人（20.0%）、「後期高齢者」が 1 人（10.0%）となっています。

自損行為による死者を火災種別ごとにみると、建物火災での死者が 5 人（50.0%）、建物以外の火災で 5 人（50.0%）となっています。建物火災での死者 5 人のうち 4 人は住宅や共同住宅の自宅で灯油等をかぶり、自らライター等で火をつけて自損を図っています。建物火災以外では、敷地内や河川敷において灯油等をかぶり自損を図ったものです。

以下、「自損行為による死者」10 人を除いた 77 人について分析します。

ウ 年齢別発生状況

年齢区分別に死者の発生状況をみると、高齢者の死者は53人（68.8％）で、自損行為を除く死者数の7割近くを占めています。

エ 火災種別・程度別発生状況

火災種別ごとの死者発生状況をみると、77人のうち建物火災で76人（98.7％）、建物以外で1人（1.3％）発生しています。建物火災による死者のうち、部分焼以上に延焼拡大した火災（以下「延焼火災」という。）による死者は68人（89.5％）発生しています。

オ 月別火災件数と死者発生状況

月別の火災件数と、自損行為を除いた死者の発生状況を表したのが表4-1-3です。

1月から3月及び12月は火災の多発する時期で、この期間の火災件数は2,031件（39.1％）で、死者数は49人（63.6％）となっており6割以上を占めています。

また、死者の中に占める高齢者の割合が高いのは2、4、10月で、8割以上が高齢者となっています。

表 4-1-3 月別火災件数と死者発生状況

項 目		月 合計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
火 災 件 数		5,190	502	496	518	418	437	336	406	376	351	381	454	515
死 者 数	合 計	77	13	15	11	6	3	6	1	1	2	3	6	10
	高 齢 者 以 外	24	3	2	5	1	2	2	1	1	2	-	2	3
	高 齢 者	53	10	13	6	5	1	4	-	-	-	3	4	7
高 齢 者 の 占 め る 割 合 (%)		68.8	76.9	86.7	54.5	83.3	33.3	66.7	-	-	-	100.0	66.7	70.0

注1 火災件数は、管外からの延焼火災を除いています。

2 死者数は、自損行為による死者を除いています。

カ 時間別発生状況

時間別で死者の発生状況をみると、死者が発生した火災の出火時間帯で最も多いのは、8時台で8人（10.4％）発生しています。このうち8人（100.0％）全員が「高齢者」でした。

(2) 出火原因別発生状況

発火源別の経過・火災種別死者発生状況についてみたものが表 4-1-4 で、年齢区分と発火源別にみたものが表 4-1-5 です。

表 4-1-4 発火源別の経過・火災種別死者発生状況

発火源	合	経過							火災種別					
		火源が落下する	可燃物が接触する	接炎する	放置する・忘れる	その他	不明	建物	物					その他
									小	全	半	部分	ぼや	
計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計
合計	77	20	13	4	3	17	20	76	25	16	27	8	1	
たばこ	22	20	-	-	-	2	-	22	4	5	13	-	-	
暖房器具	小計	10	-	8	-	-	2	-	10	1	3	5	1	-
	電気ストーブ	7	-	6	-	-	1	-	7	-	3	3	1	-
	カーボンヒータ	2	-	2	-	-	-	-	2	-	-	2	-	-
	石油ストーブ	1	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-
厨房関連	小計	9	-	2	3	3	1	-	9	-	2	3	4	-
	ガステーブル	3	-	2	-	1	-	-	3	-	1	1	1	-
	ガスコンロ	2	-	-	2	-	-	-	2	-	1	-	1	-
	ガスレンジ	1	-	-	1	-	-	-	1	-	-	-	1	-
	大型ガスコンロ	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-
	電気クッキングヒーター	1	-	-	-	1	-	-	1	-	-	1	-	-
	電子レンジ	1	-	-	-	-	1	-	1	-	-	-	1	-
コード	3	-	-	-	-	3	-	3	3	-	-	-	-	-
ライター	2	-	-	1	-	1	-	2	-	1	-	1	-	-
差込みプラグ	2	-	-	-	-	2	-	2	2	-	-	-	-	-
その他	9	-	3	-	-	6	-	8	2	3	3	-	1	
不明	20	-	-	-	-	-	20	20	13	2	3	2	-	

注 自損行為による死者を除いています。

表 4-1-5 年齢区分と発火源別死者発生状況

[illegible]

注 自損行為による死者を除いています。

ア た ば こ

たばこによる火災の死者は22人（28.6％）で、前年と比べて1人減少しています。

年齢別では「後期高齢者」が12人（54.5%）、「成人」が6人（27.3%）、「前期高齢者」が4人（18.2%）となっています。

経過をみると、「火源が落下する」が20人（90.9%）と9割以上を占めています。

「火源が落下する」のうち、「寝たばこ」によるものが4人（20.0%）発生しています。

たばこが出火原因である場合、おおむね無炎燃焼を継続してから有炎となり燃え上がるため、火種の落下直後は気付かない場合が多いと考えられます。

事例 たばこにより出火した火災（5月・調布市）			
構造・用途等	防火造 2/0 共同住宅	出火階・箇所	2階・居室
焼 損 程 度	建物ぼや1棟 畳2等焼損 負傷者1人		
この火災は、火元者（70歳代男性）が喫煙後、吸殻が大量に溜まった灰皿にたばこを押し付けて捨てたため、火種が残ったたばこが落下し、こたつ布団に着火し出火したものです。 この火災で火元者が両足を火傷する重篤の怪我を負っています。			

イ 暖房器具

暖房器具による火災の死者は、前年同数の10人（13.0%）発生しており、このうち「電気ストーブ」が7人（70.0%）で暖房器具の7割を占めています。

暖房器具による火災の経過をみると、ストーブに衣類や紙製品等の可燃物が接触し出火したものが8人（80.0%）などとなっています。

ウ 厨房関連器具

厨房関連器具による火災の死者は、前年と比べて4人減少の9人（11.7%）発生しており、このうち「ガステーブル」が3人（33.3%）、「ガスこんろ」が2人（22.2%）、「ガスレンジ」、「大型ガスこんろ」、「電気クッキングヒータ」及び「電子レンジ」が各1人（11.1%）となっています。

厨房関連器具による火災の経過をみると、「放置する・忘れる」及び「接炎する」により出火したものが各3人（33.3%）などとなっています。

エ その他

「コード」による火災の死者が3人（3.9%）、「ライター」及び「差込みプラグ」による火災の死者が各2人（2.6%）などとなっています。

2 火災による負傷者

○ 初期消火中の受傷による負傷者が最も多く発生しています。

(1) 発生状況

ここでとりあげる「火災による負傷者」とは、火災に起因して負傷した人をいいます。

ア 発生状況

火災による負傷者の年別発生状況は表 4-2-1 に示すとおりです。

表 4-2-1 年別発生状況（最近 10 年間）

年 別	合 計	負 傷 者 区 分			
		一 般 人			消防活動従事者
		小 計	自損行為以外	自 損 行 為	
16	1,214(1)	1,180(8)	1,152(3)	28(5)	34
17	1,243(11)	1,220(11)	1,191(10)	29(1)	23
18	1,234(12)	1,211(12)	1,195(12)	16(-)	23
19	1,230(12)	1,207(12)	1,191(8)	16(4)	23
20	1,187(8)	1,162(8)	1,141(8)	21(-)	25
21	1,025(9)	1,003(9)	983(8)	20(1)	22
22	932(9)	913(9)	897(7)	16(2)	19
23	962(13)	944(13)	918(11)	26(2)	18
24	832(7)	814(7)	802(7)	12(-)	18
25	781(3)	763(3)	744(3)	19(-)	18

注 1 消防活動従事者とは、消防職員、消防団員などの消防活動等に従事した者の区分です。

2 ()内は、30 日死者(火災による負傷者のうちで、48 時間を超え 30 日以内に死亡した人)を内数で示したものです(「30 日死者」の項を参照)。

平成 25 年中に、負傷者が発生した火災は 608 件で、781 人が負傷しており、前年と比べて負傷者の発生した火災件数は 38 件、負傷者は 51 人それぞれ減少しています。このうち一般人の負傷者は 763 人(97.7%)で前年と比べて 51 人減少し、消防活動従事者(消防職員・消防団員などの消防活動等に従事した者)が 18 人(2.3%)で、前年と同数となっています。

また、負傷者の発生率(負傷者の発生した火災が、総火災件数に占める割合)は 11.9%で、前年と比べて 0.8 ポイント減少しています。

3 人以上の負傷者が発生した火災は 30 件で、104 人が負傷しており、前年と比べて、火災

件数は10件、負傷者が35人それぞれ減少しています。これらの火災では、住宅や共同住宅から出火し、避難の際に廊下や階段などで煙を吸って負傷するケースや、初期消火の際に負傷するケースが多くみられます。

なお、ここからは火災による負傷者のうち、消防活動従事者及び自損行為による負傷者を除いた744人について分析します。

イ 火災種別・年齢区分と受傷程度の状況

火災種別と年齢区分別に受傷程度をみたのが表4-2-2です。

火災種別ごとに負傷者の発生数をみると、建物火災での負傷者は705人（94.8%）と大部分を占めています。さらに建物火災を火災程度別でみると、部分焼以上の延焼火災では358人（50.8%）発生し、建物火災の5割以上を占めています。

受傷程度別でみると、「軽症」が404人（54.3%）で最も多く、負傷者の5割以上を占めています。

火災による負傷者を、「高齢者」と「高齢者以外」でみると、「高齢者以外（不明を含む。）」は536人（72.0%）で、「高齢者」は208人（28.0%）となっています。

表4-2-2 火災種別・年齢区分別受傷状況

受 傷 程 度	合 計	火 災 種 別								年 齢 区 分					
		建 物					林	車	そ の 他	（乳 5 歳 以 下 ） 児	（未 6 歳 19 歳 ） 年	（成 20 歳 64 歳 ） 人	（前 65 期 高 74 歳 ） 者	（後 75 期 高 以 上 ） 者	年 齢 不 明
		小 計	全 焼	半 焼	部 分 焼	ぼ や									
合 計	744	705	71	58	229	347	1	11	27	13	50	473	97	111	-
重 篤	26	22	-	3	10	9	1	-	3	-	1	11	6	8	-
重 症	99	94	11	9	30	44	-	-	5	-	4	61	15	19	-
中 等 症	215	206	25	24	62	95	-	5	4	3	10	140	24	38	-
軽 症	404	383	35	22	127	199	-	6	15	10	35	261	52	46	-

注 消防活動従事者及び自損行為による負傷者を除いています。

事例1 多数の負傷者が発生した火災（11月・武蔵村山市）

構 造 ・ 用 途 等 耐火造 5/0 共同住宅 出火階・箇所 2階・居室

焼 損 程 度 建物部分焼1棟 21㎡等焼損 死者1人 負傷者5人

この火災は、共同住宅2階居室内で、火元者（50歳代男性）が使用していたカーボンヒータのヒータ部に布団が接触したため、出火したものです。

この火災により、火元住戸から消防隊により救助された火元者の死亡が搬送先の病院で確認されました。他に建物居住者5人が避難しようとした際に煙を吸い負傷しています。

(2) 出火原因別発生状況

ア 出火原因別受傷時の状態

出火原因別及び負傷者の男女別で受傷時の状態をみたのが、表 4-2-3 です。

出火原因別にみると、「ガステーブル等」が 154 人（20.7%）で最も多く、次いで「たばこ」が 85 人（11.4%）、「放火」が 57 人（7.7%）などとなっています。

また、これら出火原因ごとの火災 1 件あたりの負傷者発生率は、それぞれ「ガステーブル等」が 36.8%（火災件数 418 件）、「たばこ」が 11.5%（火災件数 737 件）、「放火」が 3.5%（火災件数 1,622 件）となっています。

受傷時の状態別でみると、「ガステーブル等」では「家事従事中」に受傷したものが 51 人（33.1%）で最も多く、次いで「初期消火中」は 50 人（32.5%）などとなっています。

「たばこ」では「初期消火中」が最も多く 32 人（37.6%）で、次いで「就寝中」が 20 人（23.5%）などとなっています。

「放火」では「初期消火中」が 20 人（35.1%）、次いで「避難中」が 8 人（14.0%）などとなっています。

表 4-2-3 出火原因別受傷時の状態

受傷時の状態	合計	出火原因													男女別	
		ガステーブル等	たばこ	放火	電気ストーブ	大型ガスコンロ	ロウソク	石油ストーブ等	ライター	大型ガスレンジ	電気コンロ	ガスのストーブ	火遊び	その他	男性	女性
合計	744	154	85	57	48	38	30	26	20	13	12	10	10	241	446	298
初期消火中	254	50	32	20	14	27	11	9	2	5	5	2	1	76	192	62
避難中	88	8	9	8	8	-	5	2	2	-	-	-	3	43	40	48
家事従事中	78	51	2	-	-	2	7	2	1	-	2	-	-	11	17	61
作業中	75	13	-	2	1	3	-	4	1	6	-	3	1	41	57	18
就寝中	65	8	20	4	12	-	3	1	-	-	2	-	-	15	43	22
休憩中	25	2	6	-	1	1	-	2	5	-	-	1	-	7	13	12
飲食中	9	2	2	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-	1	6	3
その他・不明	150	20	14	23	12	5	4	6	5	2	3	4	5	47	78	72

注 消防活動従事者及び自損行為による負傷者を除いています。

男女別では、男性が 446 人（59.9%）、女性が 298 人（40.1%）と男性の受傷割合が高くなっています。

受傷時の状態を男女別でみると、男性、女性ともに「初期消火中」の受傷割合が最も高くなっています。次いで男性は「作業中」、「就寝中」の受傷割合が多く、女性は「家事従事中」、「避難中」の受傷割合が多くなっています。

イ 受傷時の状態と受傷の理由

受傷の理由で多いものとしては、「火に接近しすぎた」が 126 人（16.9%）、「消火に手間取った」が 121 人（16.3%）、「自ら消火する能力がなかった」が 96 人（12.9%）、「消火のために燃焼物に触れた」が 68 人（9.1%）などとなっています。

主な事例としては、初期消火中に燃焼物に接近しすぎて火炎にあおられる事例や、天ぷら油火災で鍋を運び出そうとしたり、タオルや座布団を被せたり、油に水をかけるなどしたために受傷する事例などがあります。これらは、火災を比較的早期に発見し、初期消火をしているにもかかわらず、その手段や方法が適切でなかったために受傷してしまった事例です。

「自ら消火する能力がなかった」ものは、出火時に家事従事中（調理中等）で着衣着火などにより受傷したものです。

事例 2 初期消火中に負傷した火災（4 月・東大和市）			
構造・用途等	耐火造 4/0 共同住宅	出火階・箇所	1 階・台所
焼 損 程 度	建物ぼや 1 棟 蛍光灯 1 等焼損 負傷者 1 人		
この火災は、火元者（60 歳代女性）が天ぷら油を電気クッキングヒーターで加熱したままその場を離れたため天ぷら油が発火し、出火したものです。 この火災で火元者が火災発見後、天ぷら鍋に座布団を被せたが消火しきれず、付近にあったタオルに炎が燃え移ったため、素手で燃えているタオルを流しに入れた際に火傷を負っています。			

(3) 30 日死者

「30 日死者」とは、火災による負傷者のうちで、48 時間を超えて 30 日以内に死亡した人のことをいいます。平成 25 年中は、3 件の火災で 3 人が亡くなっており、前年と比べて 4 人減少しています。自損行為による負傷者で、30 日死者の発生はありませんでした。

30 日死者 3 人の内訳は、成人が 2 人（66.6%）、後期高齢者が 1 人（33.3%）となっています。